



「さよなら 自立支援法」とアピールした全国大フォーラム＝10月30日、東京・日比谷野外音楽堂 撮影・野間あきら記者

障害が重い人ほど重い「応益負担」を強いられる障害者自立支援法の成立から4年。鳩山政権は廃止を掲げましたが、運動を強め、一刻も早く「応益負担」をやめさせよう」との声が強まっています。

幅広い障害者団体が主催し、東京・日比谷野外音楽堂で開かれた「10・30全国大フォーラム」に、1万人の晴れやかな者が生きるために必要な

東京で1万人集会

表情があふれました。05年10月31日に自立支援法が成立してから毎年、大集会を開催。障害者が生かすために必要な

権公約(マニフェスト)に掲げた鳩山政権のもとで開かれました。スローガンは「さよなら! 障害者自立支援法! つくろう! 私たちの新法を!」です。

「大フォーラム」には、政府代表として初めて長妻昭厚生労働相が出席。「応益負担」という、皆様に

に非常に重い負担と、苦しみと、尊厳を傷つける、障害者自立支援法を廃止する決断をしていく」と表明しました。

「大フォーラム」の政党内閣には、民主党、民進党、社民党の代表が出席しました。自民、公明両党は

「さよなら自立支援法」のテーマはあまりにも重すぎる(主催者の説明)として欠席しました。

日本共産党の高橋ちづ子衆議院議員は、自立支援法の廃止を目指し、障害者の運動と結んで、党として国会論戦や実態調査、政策提言を重ねてきたことを紹介。早急に、

自立支援法の応益負担条項を削除する法改正を行うこと、事業所の報酬の日払い制を月払いに戻すことを求めました。

「声を上げたから」

障害者新法は私たちの声きいて



全国大フォーラムの参加者たち



全国大フォーラム会場仲間と一緒に。中央が足立さん

さよなら 自立支援法



妻の静さん(左)と話す古河辰彦さん＝千葉県松戸市の自宅

千葉県松戸市の古河辰彦さん(69)、静さん(66)夫妻も、自立支援法の日も早い廃止を願っています。

脳性まひで両手両足とも不自由な辰彦さん。着替え、移動、食事など生活のすべてに介助が必要です。1日5回の訪問介護などを受けています。

国の負担軽減策(負担の上限は月3千円)以外に移動支援や介護保険の負担もあり、利用料は月約3万円にのびます。

両手両足とも不自由 負担の心配なくして

助などをしていきます。しかし、脊椎(せきつい)カリエスの後遺症で体が小さく、常にチューブで酸素吸入をしています。

辰彦さんが受けているサービスは限度額ぎりぎりのため、夜間に緊急にヘルパーを頼むときは自費になります。

自立支援法を「一刻も早く廃止してほしい」と辰彦さん。鳩山政権の廃止表明に、静さんは「一つの進歩」としながらも「若干不安がある。負担の心配がないようにしてほしい」と訴えます。

「大フォーラム」は、自立支援法廃止と、新法制定・検討に当たり障害当事者の十分な参加を保障することなどを求めるアピールを採択し、長妻厚

労相に手渡しました。

脳性まひで両足が不自由なため、松葉づえが頼りです。前日深夜に現地をバスで出発し、10時間かけて来ました。「ほとんど眠れていない」といいます。

今回で3回目の参加です。「いろいろなたたかいの中でこまど来た。みんなが声を上げたからこそ政権も変わった」と力を込めます。

施設の指導員、田中愛子さんは、自立支援法で施設の受け取る報酬が月払いから日払いになり、「利用者は体調が悪くても通っている」と訴えます。

休むと施設の減収になるのを心配してのことです。先日は、台風で施設を閉めましたが、その分も減収です。「自立支援法の廃止を明言したが入りていかなあかん」

京都府福知山市の通所施設の仲間や職員、保護者と参加した足立隆さん(45)は「廃止を打ち出したのは大きい。利用料を無料にしてほしいし、予算も大幅に増やさない」と。急いでやってほしい。